

桂川下流域の中世集落

(公財)京都市埋蔵文化財研究所 中谷正和

はじめに

天皇家(王家)や公家を中心とした政治が行なわれた従来の時代に対して、武家と寺院(神社)が台頭して権勢を振るった平安時代後期から室町時代後期までの時代を中世と呼びます。この時代の特徴として、王家や公家、武家、寺院(神社)の私有地である荘園の増大がありますが、荘園は、各勢力の経済的基盤となっただけではなく、農業生産力の向上や貨幣経済、物品の流通に大きな影響を与えました。

平安京・京都周辺でも多くの荘園が営まれましたが、その荘園の管理者は、やがて国人(土豪)と呼ばれる地域の有力者となりました。彼らは京都近郊の集落に、自らの拠点である居館を築いたとされています。今回は桂川下流域の中世居館や集落を、発掘調査の成果から見てみたいと思います。

各遺跡の様相

●鳥羽離宮跡・竹田城(資料2・3)

平安時代後期から鎌倉時代:東西約1.7km・南北約1.1kmの範囲に御所・御堂・苑池や墓所(御陵)、倉庫をはじめとする院庁諸機関、院近臣の邸宅、地下雑人の屋地が置かれる。

室町時代から安土桃山時代:遺跡北東部(現在の竹田集落)に、溝で囲まれた方形区画群(竹田城)。集落周辺では耕作溝を検出。離宮の苑池は当該期頃に埋没か。

●富ノ森城(資料4・5)

平安時代後期から鎌倉時代前半:調査地西側(5区)に溝群。周辺に屋敷地か。

鎌倉時代後半から室町時代前半:調査地中央から東側(1・2区)にかけて、溝で囲まれた区画内に掘立柱建物・井戸・墓。区画周辺からは東福寺創建期の瓦が出土。

室町時代後半:調査地北東側(4区)で正方位を指向する大溝と柵で囲まれた掘立柱建物が出現。また、現在の道路の地下に側溝を伴う道路を確認。

●下三栖城・下三栖遺跡(資料6)

平安時代後期から鎌倉時代:下三栖遺跡で溝に囲まれた屋敷地内に掘立柱建物・井戸・墓。

室町時代:下三栖城・下三栖遺跡ともに顕著な遺構は未確認。集落域は移動か。

●久我東町遺跡(資料7)

鎌倉時代後半から室町時代前半:溝に囲まれた屋敷地内に掘立柱建物・井戸・墓。

●淀水垂大下津町遺跡(資料7)

平安時代後期から鎌倉時代前半:3区で南北方向の溝、2区で井戸を確認。

鎌倉時代後半から室町時代前半:1区で流路を確認。現在の水垂集落東方の河川敷(97NG384No.3)で溝状遺構。

室町時代後半:2区で溝による方形区画を確認。区画溝から柿(こけら)経や卒塔婆が出土。

まとめ

各集落において、周囲を溝で取り囲み、区画した内部に様々な規模の建物と井戸、さらには墓を備えた屋敷地を確認できました。規模の大きな建物や墓を備えた区画は、国人の屋敷地か寺院の敷地の可能性があり、それらが同じ集落内に並存した状況も推測できました。京都周辺の荘園では、公家や武家、寺院(神社)などの権益が入り組む、複雑な土地支配があったと考えられています。集落においても、それら支配層を背景とした様々な階層の人々が連合・競合していたのかもしれない。

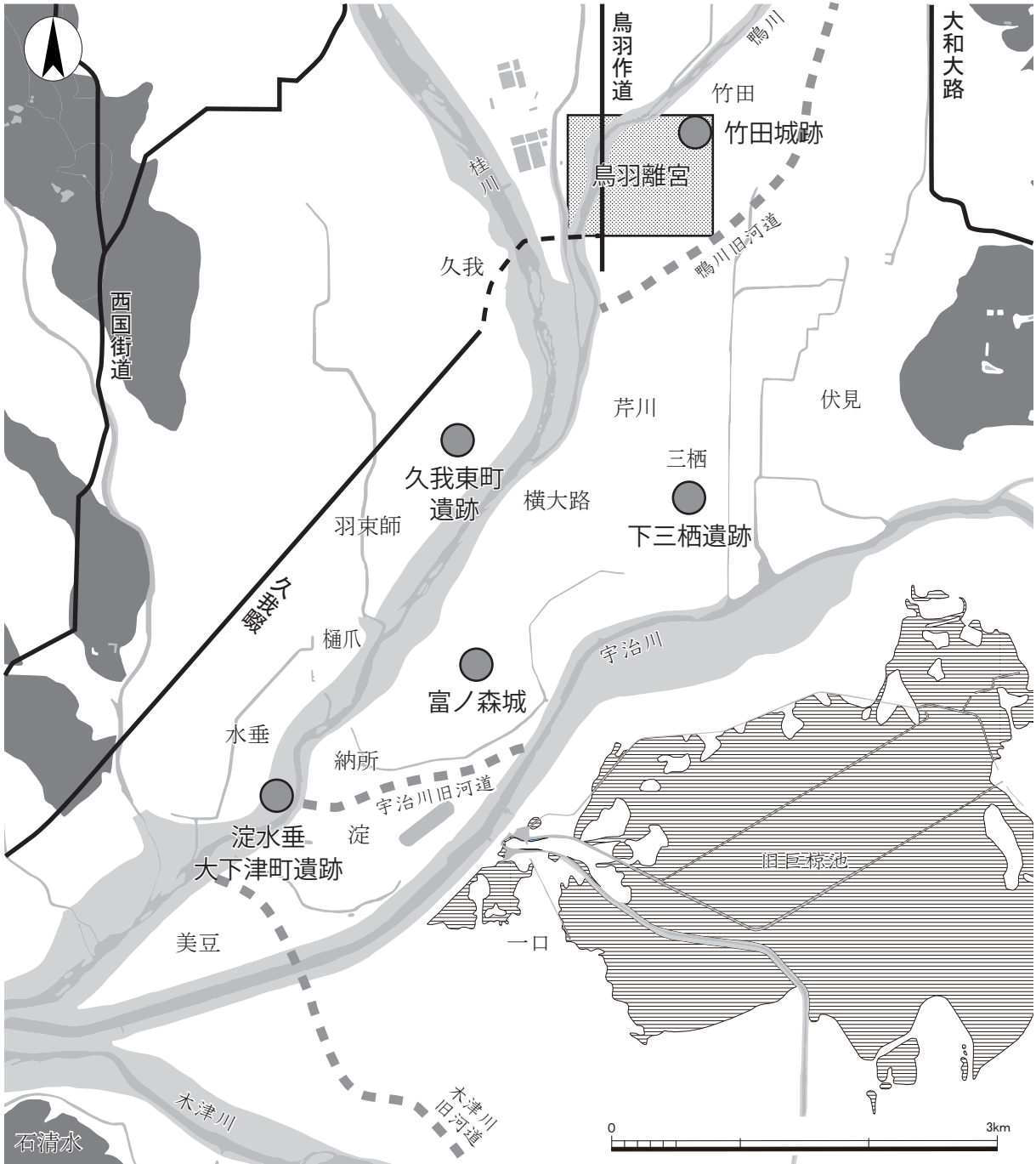


図1 対象とする遺跡 (1 : 50,000)

参考文献

* 報告書は省略

内田好昭 「鎌倉時代のくらし ―京内と郊外―」第326回京都市考古資料館文化財講座/アスニー京都学講座 公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所・京都市考古資料館 2022 年。

宇野隆夫 『シリーズ日本史のなかの考古学 荘園の考古学』 青木書店 2001年。

京都渡来文化ネットワーク会議編 『院政期最大の遺跡 鳥羽離宮を歩く』 京都三星出版 2017年。

城南文化研究会編 『城南 ―鳥羽離宮址を中心とする―』 城南宮 1967年。

鈴木久男 『シリーズ遺跡を学ぶ131 平安末期の広大な浄土世界 鳥羽離宮跡』 新泉社 2018年。

中井 均・仁木 宏編 『京都 乙訓・西岡の戦国時代と物集女城』 文理閣 2005年。

堀内明博 『日本古代都市史研究 ―古代王権の展開と変容―』 思文閣出版 2009年。

森 蘊 「鳥羽殿遺跡の調査概報」『名神高速道路路線地域内埋蔵文化財調査報告』京都市府教育庁文化財保護課 1959年。

山下正男 「京都市内およびその近辺の中世城郭 復原図と関連資料」『京都大学人文科学研究所調査報告』第35号 京都大学人文科学研究所 1986 年。

吉崎 伸 「鎌倉・室町時代の京都」 第43回京都市考古資料館文化財講座資料 1991年。

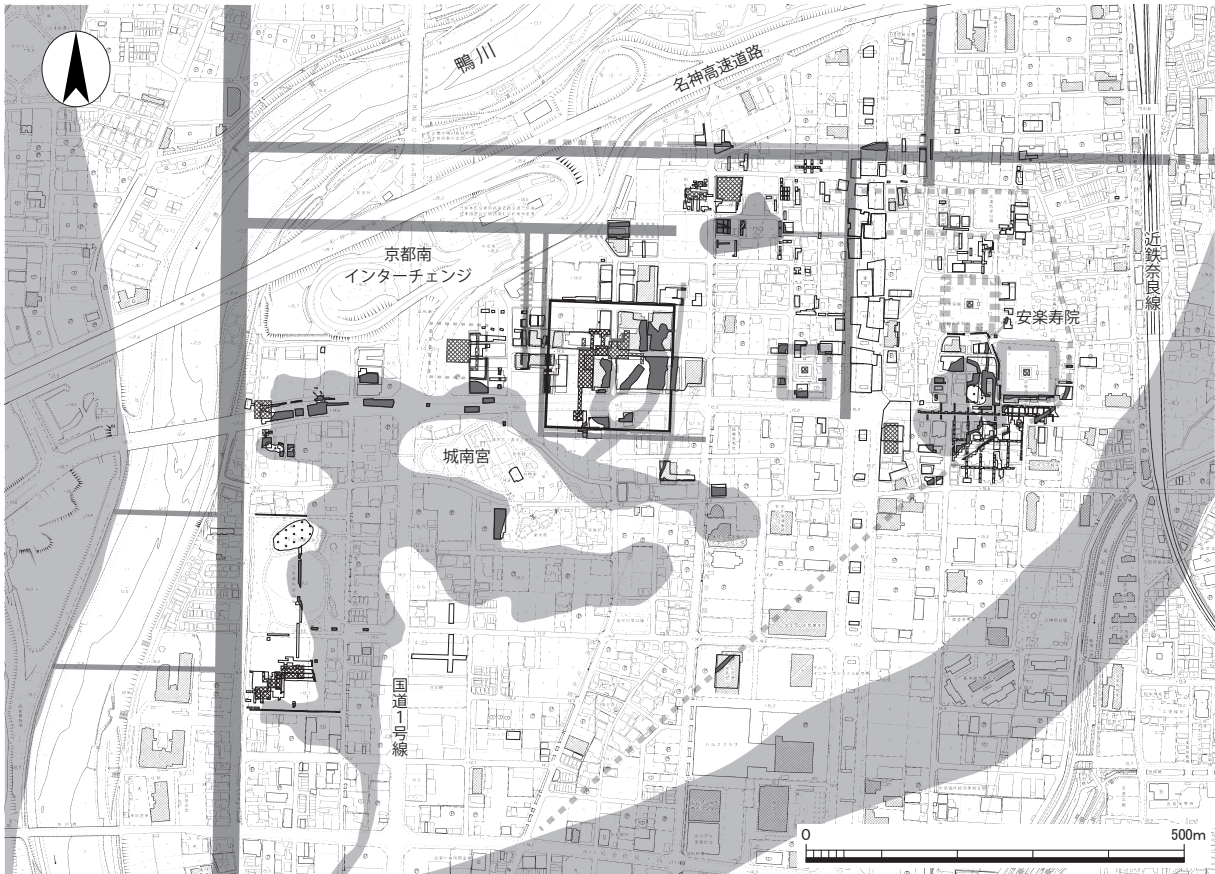


図2 平安時代後期から鎌倉時代遺構図 (1 : 10,000)

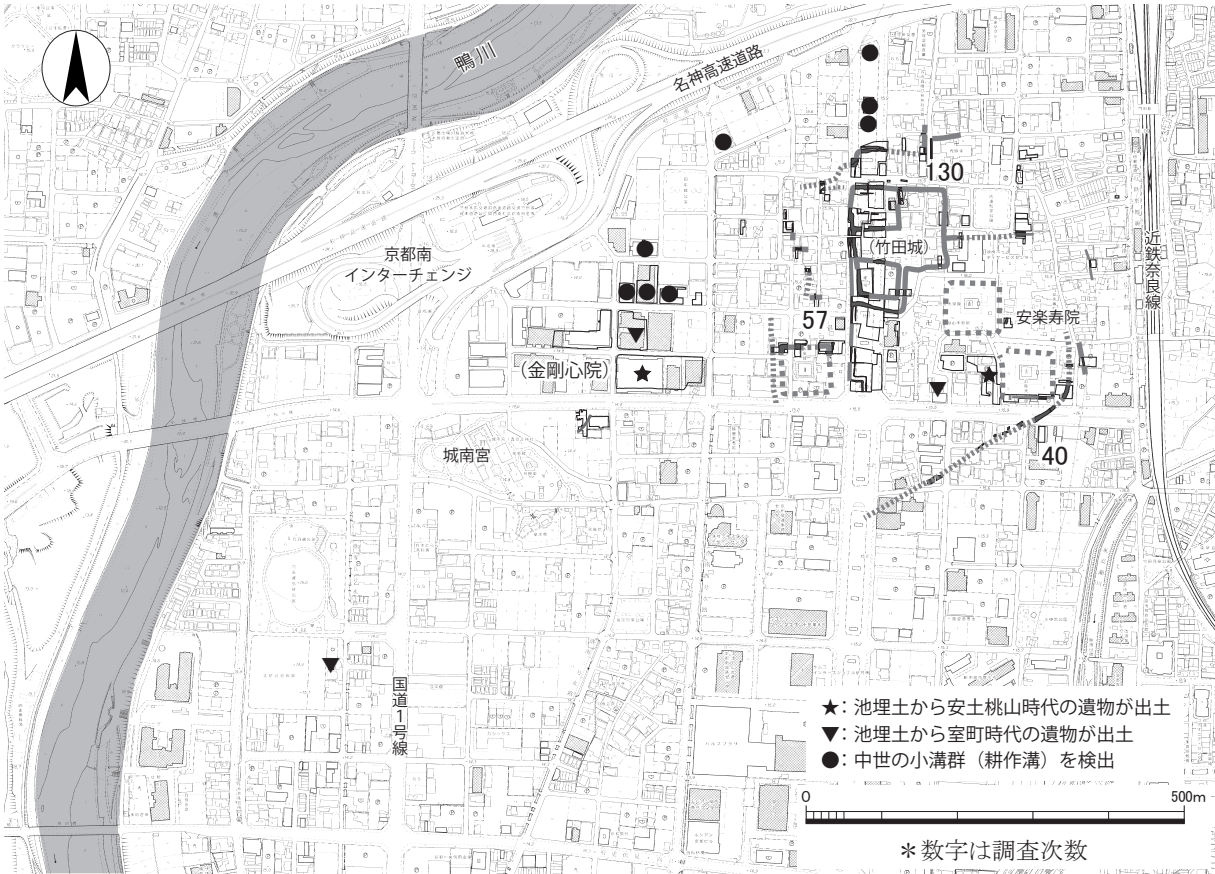


図4 室町時代遺構図 (1 : 10,000)

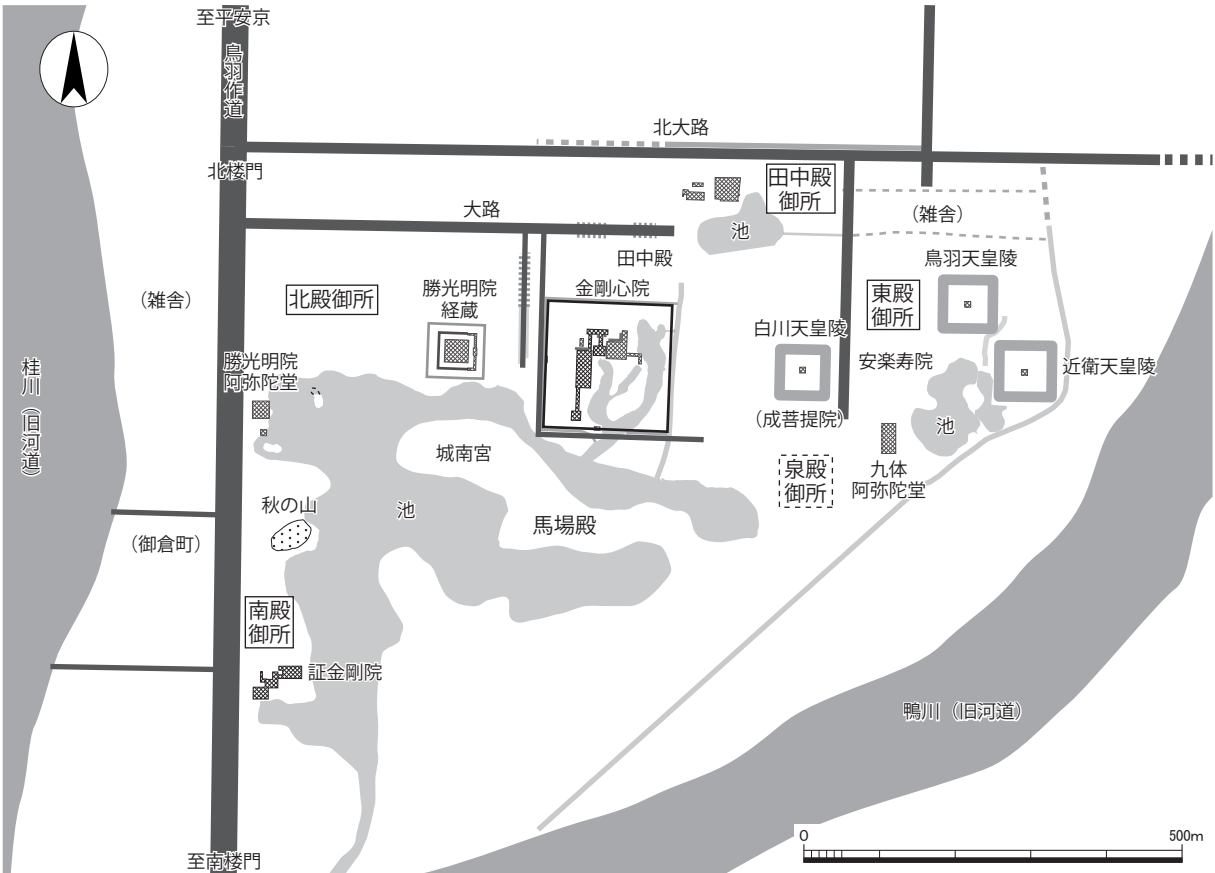


図3 鳥羽離宮概念図 (1 : 10,000)



図5 昭和 33 年 鳥羽殿跡地形実測図 (1 : 10,000)

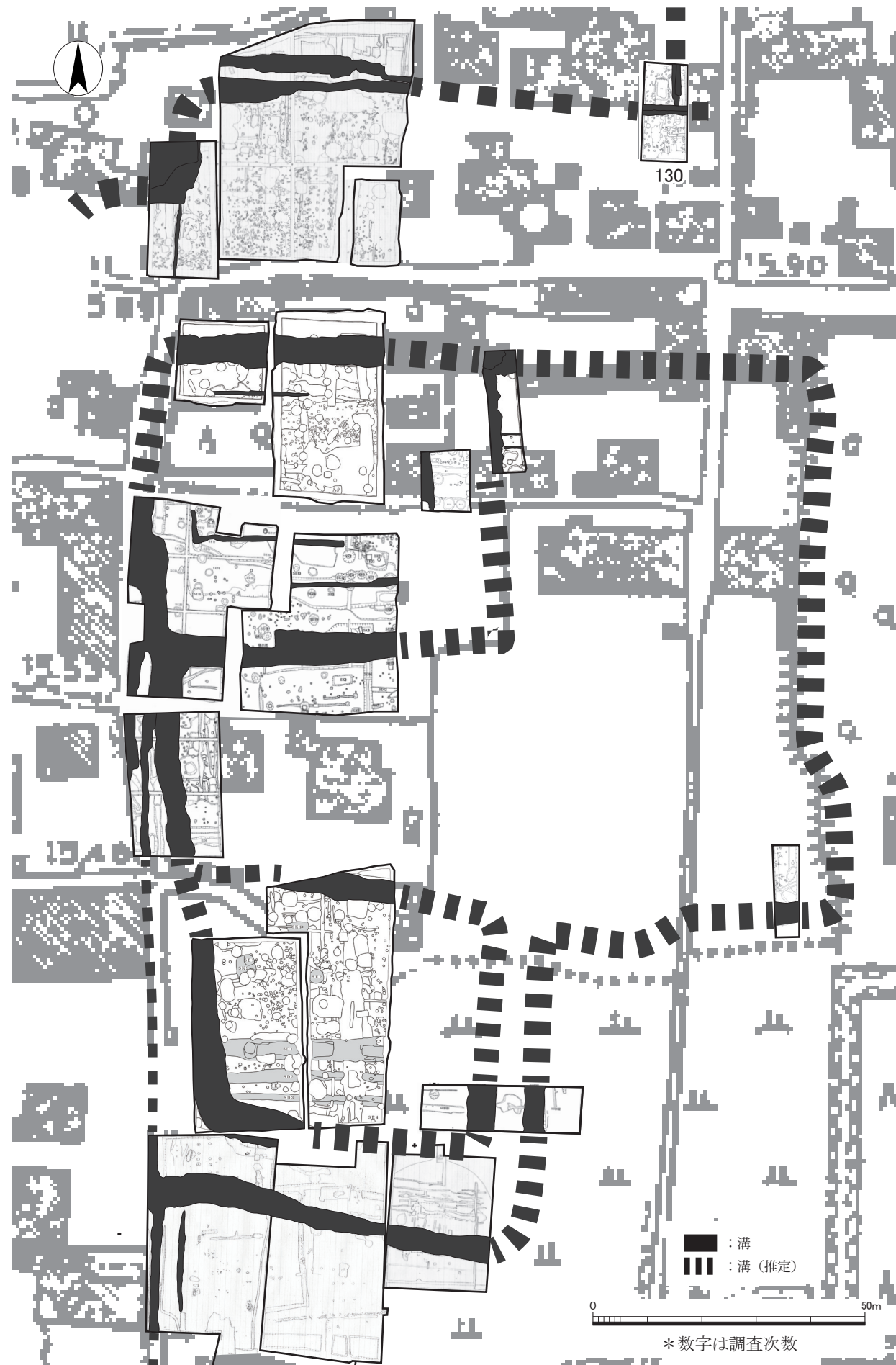


図6 竹田城平面図 (1 : 1,000)

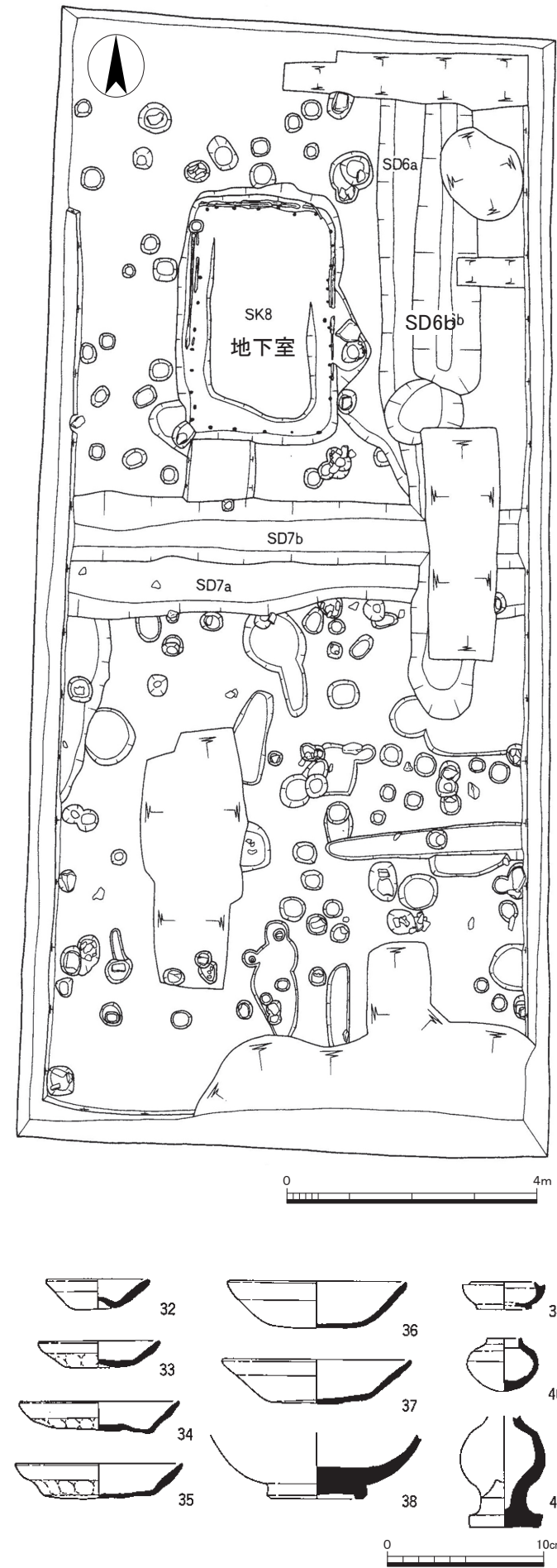


図7 第130次調査平面図 (1 : 100)
SD6b出土土器 (1 : 4)

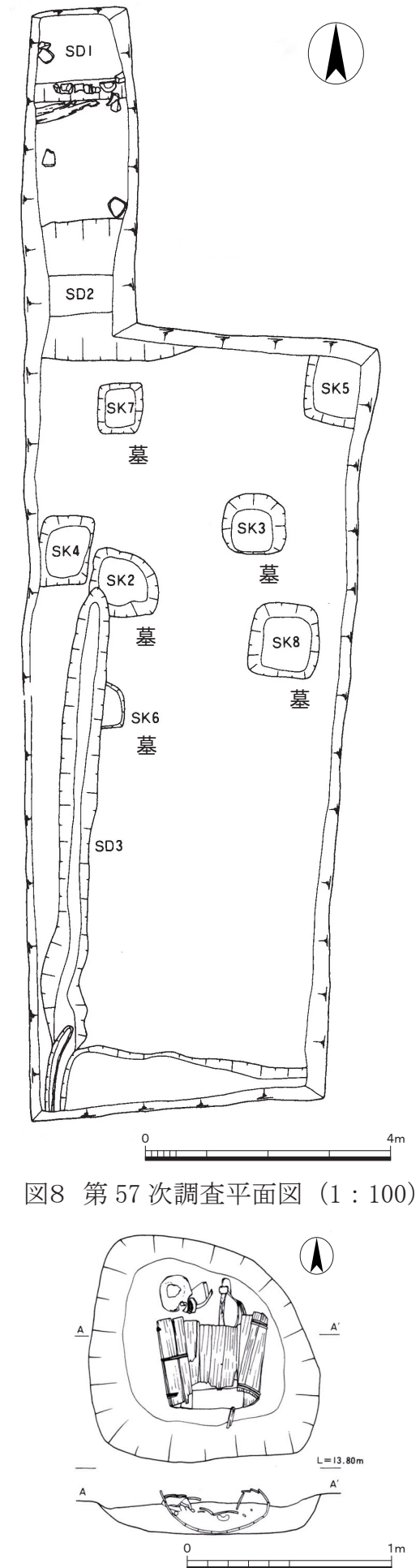


図8 第57次調査平面図 (1 : 100)

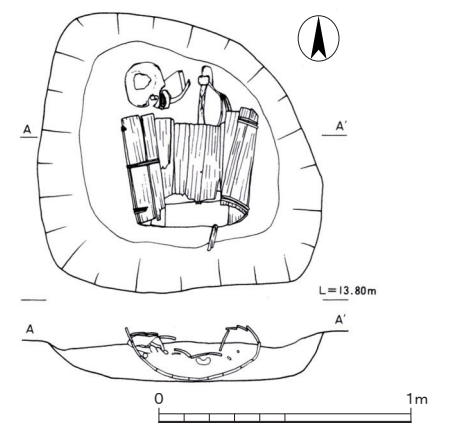


図9 SK2実測図 (1 : 30)

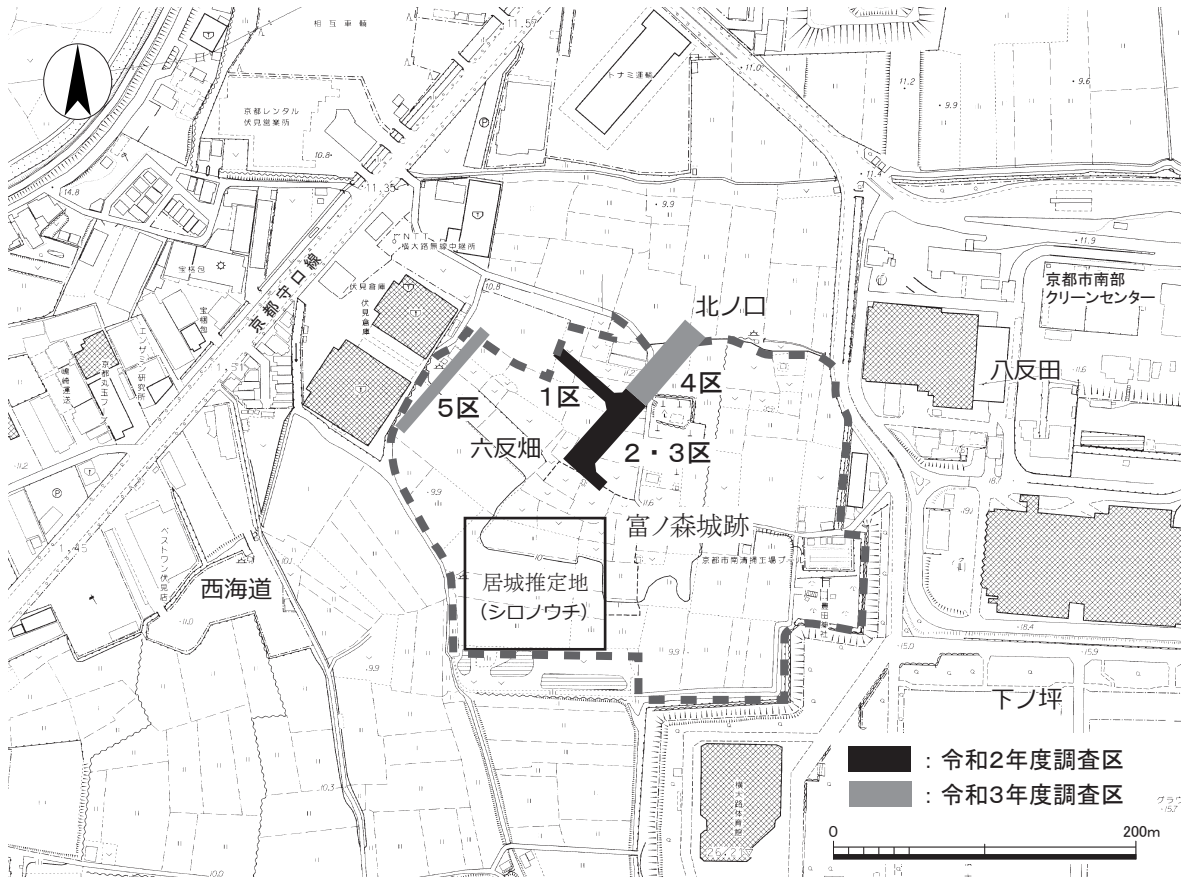


図 10 調査位置図 (1 : 5,000)

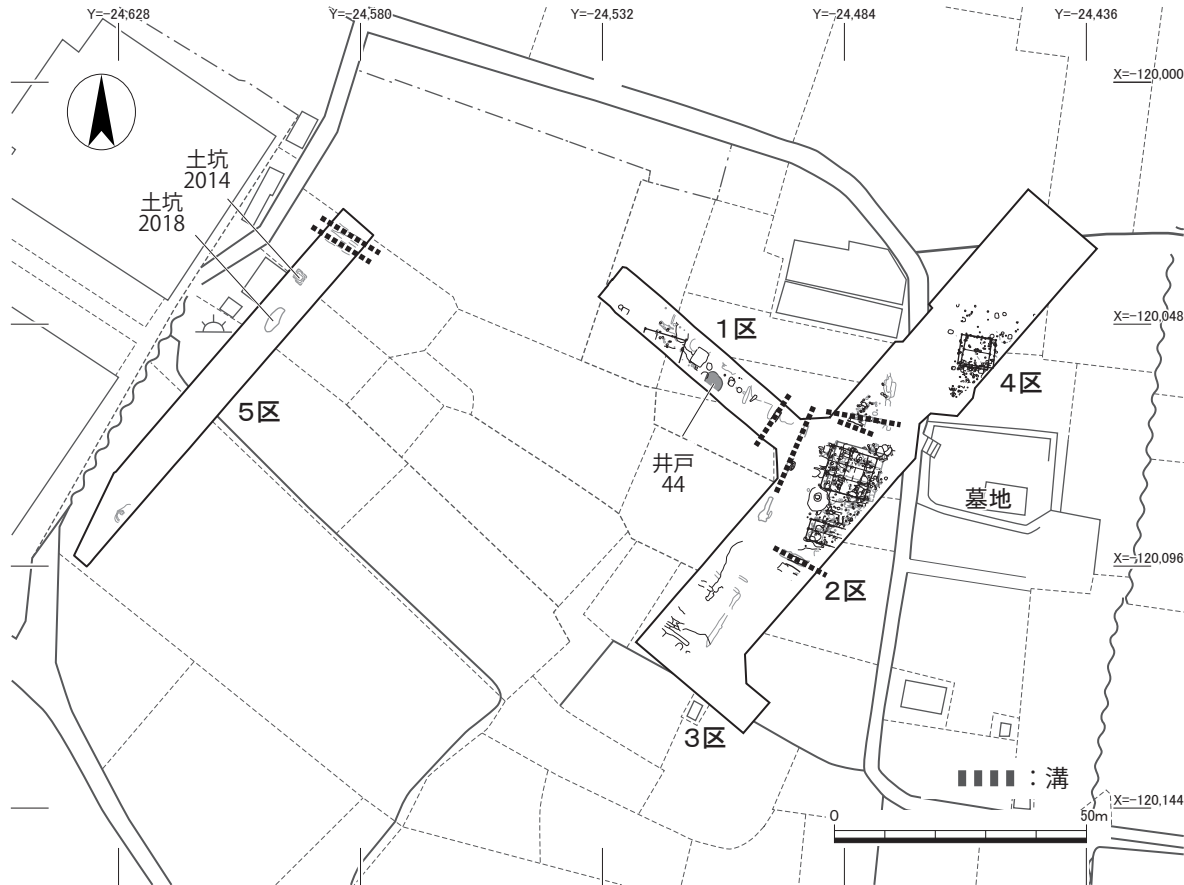


図 12 鎌倉時代後半～室町時代前半の遺構 (1 : 1,500)

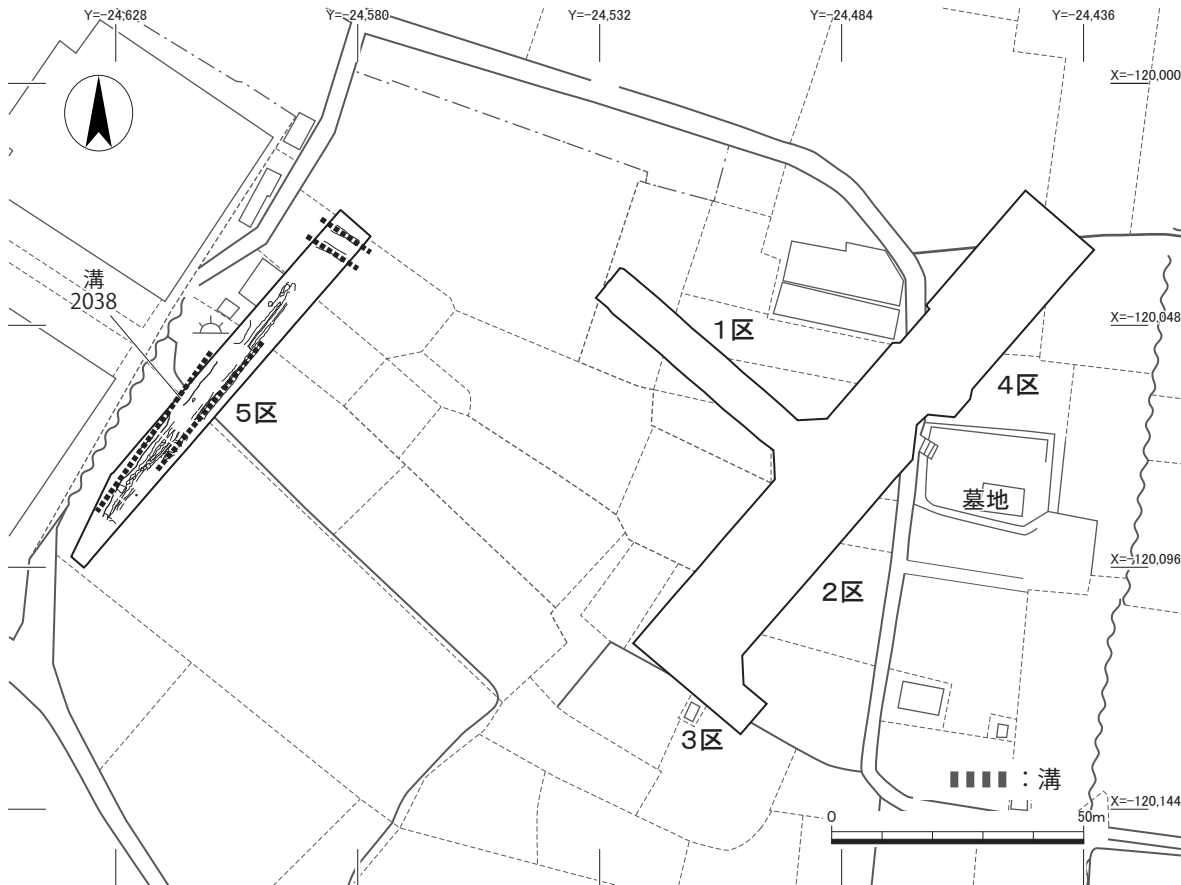


図 11 平安時代後期～鎌倉時代前半の遺構 (1 : 1,500)

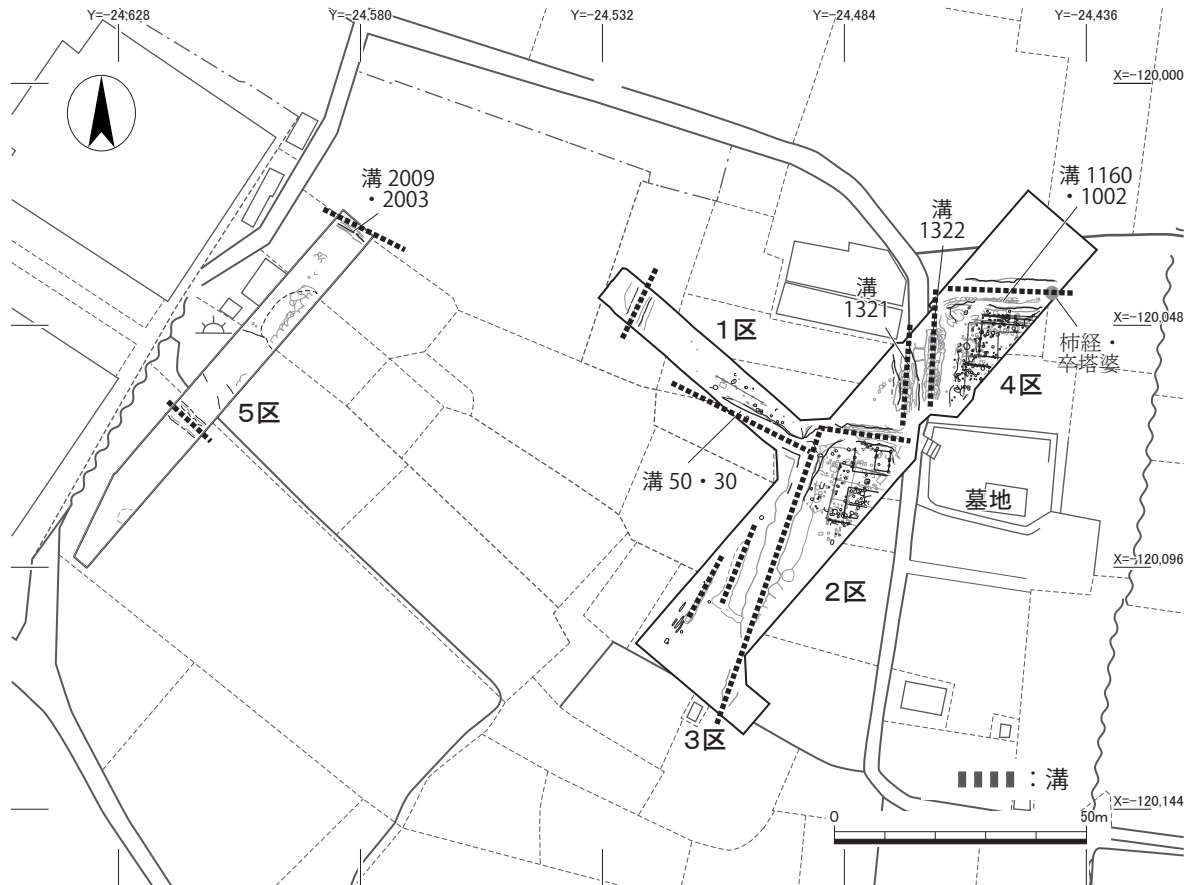


図 13 室町時代後半～安土桃山時代の遺構 (1 : 1,500)



図 14 鎌倉時代後半 2区遺構図 (1 : 200)



図 16 室町時代後半 4区遺構図 (1 : 200)

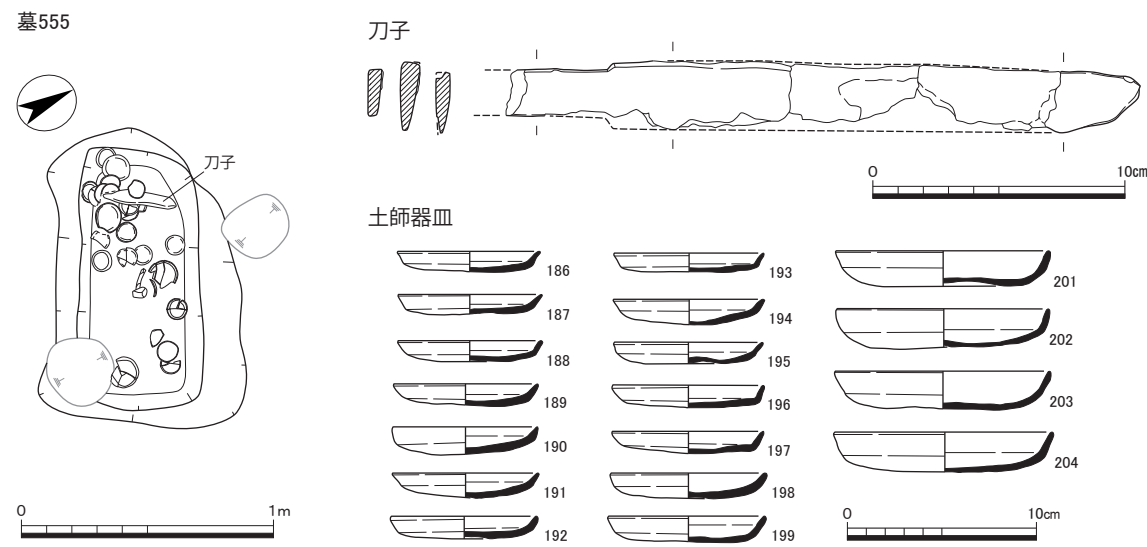


図 15 墓 555 遺構実測図 (1 : 30)・遺物実測図 (1 : 3、1 : 4)

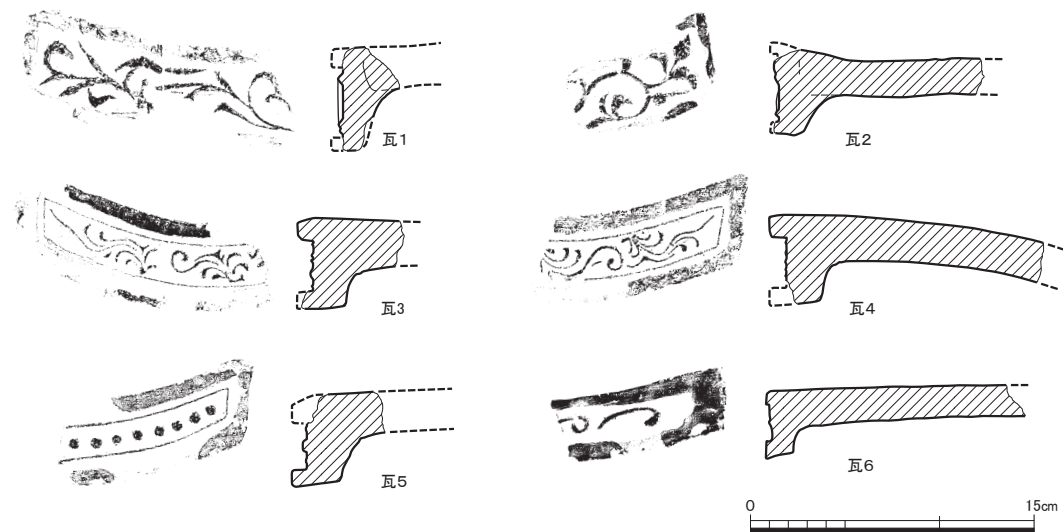
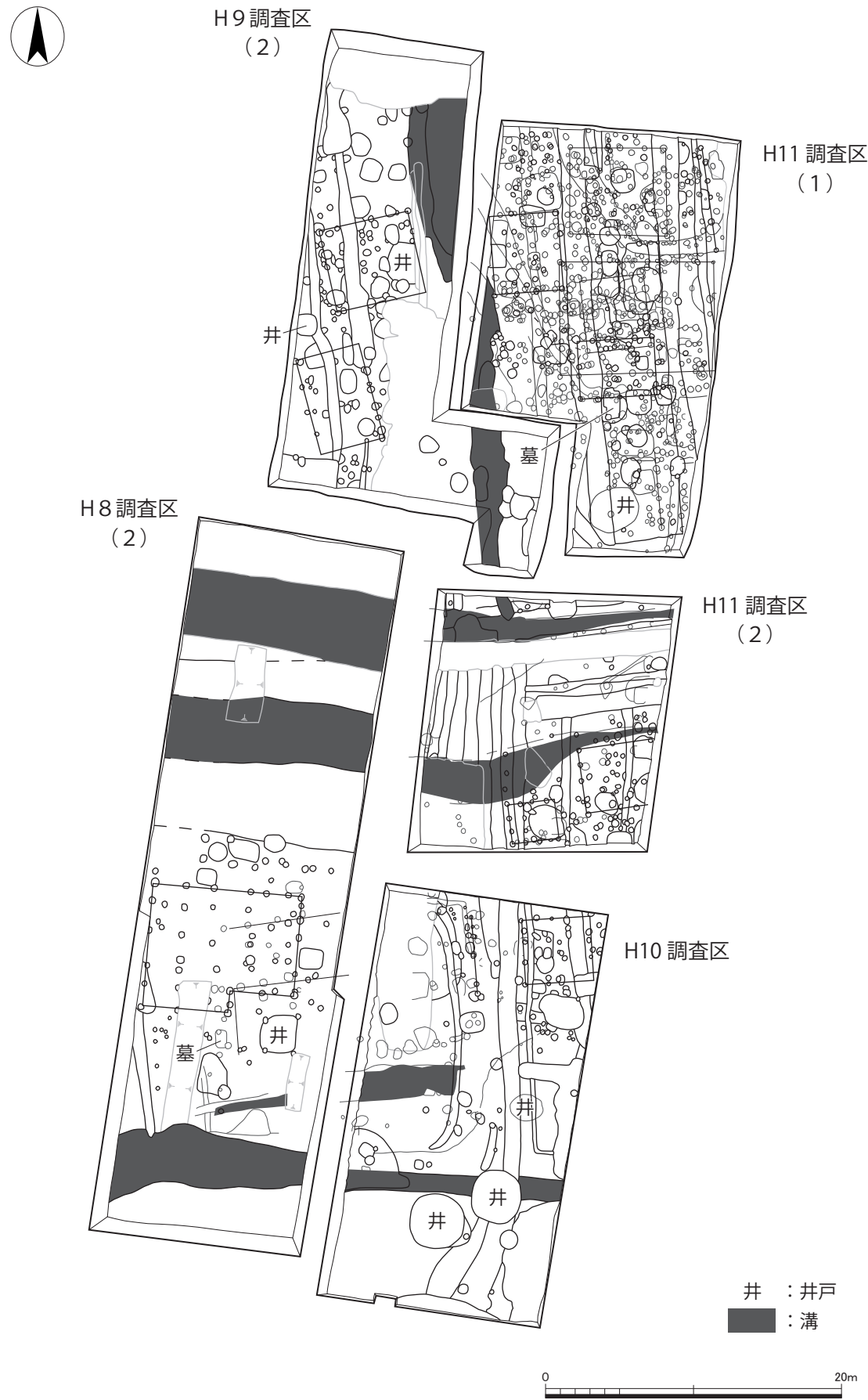
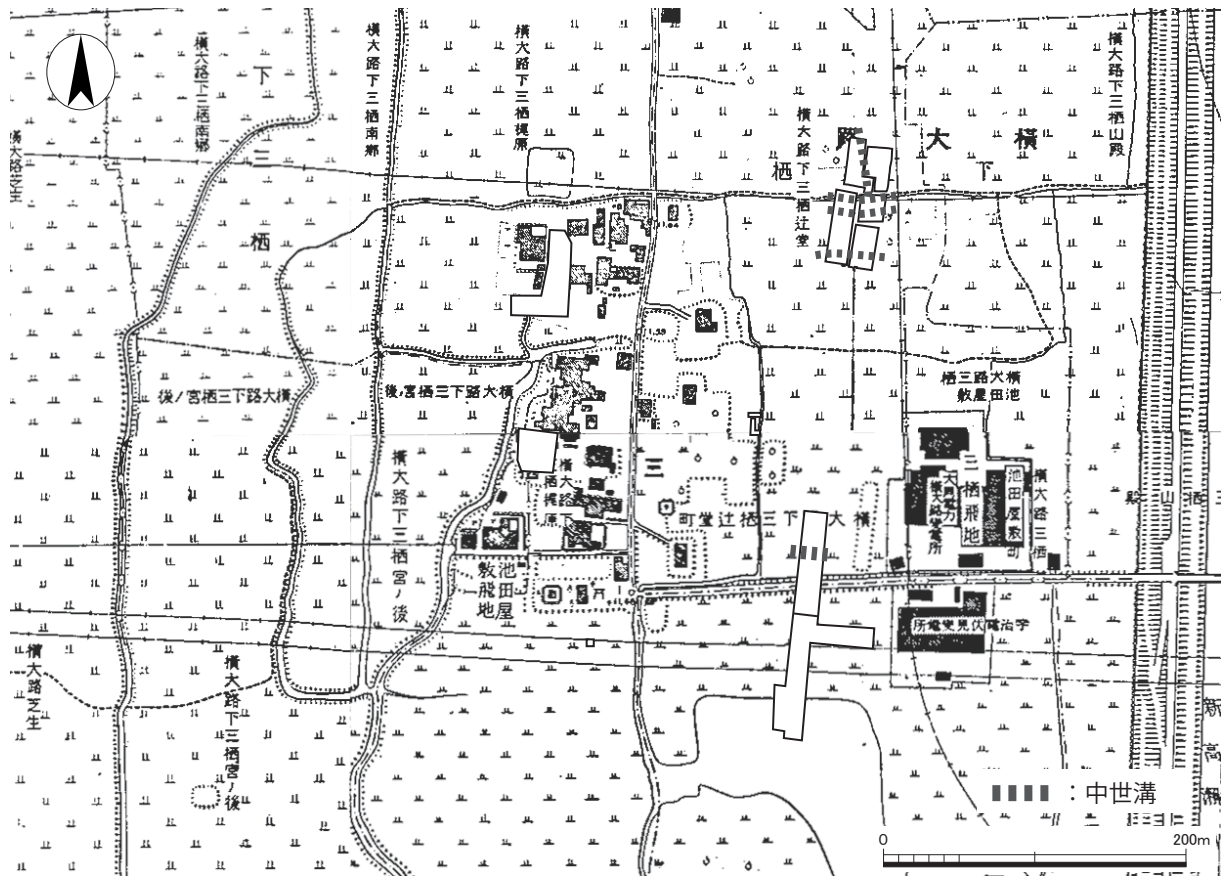
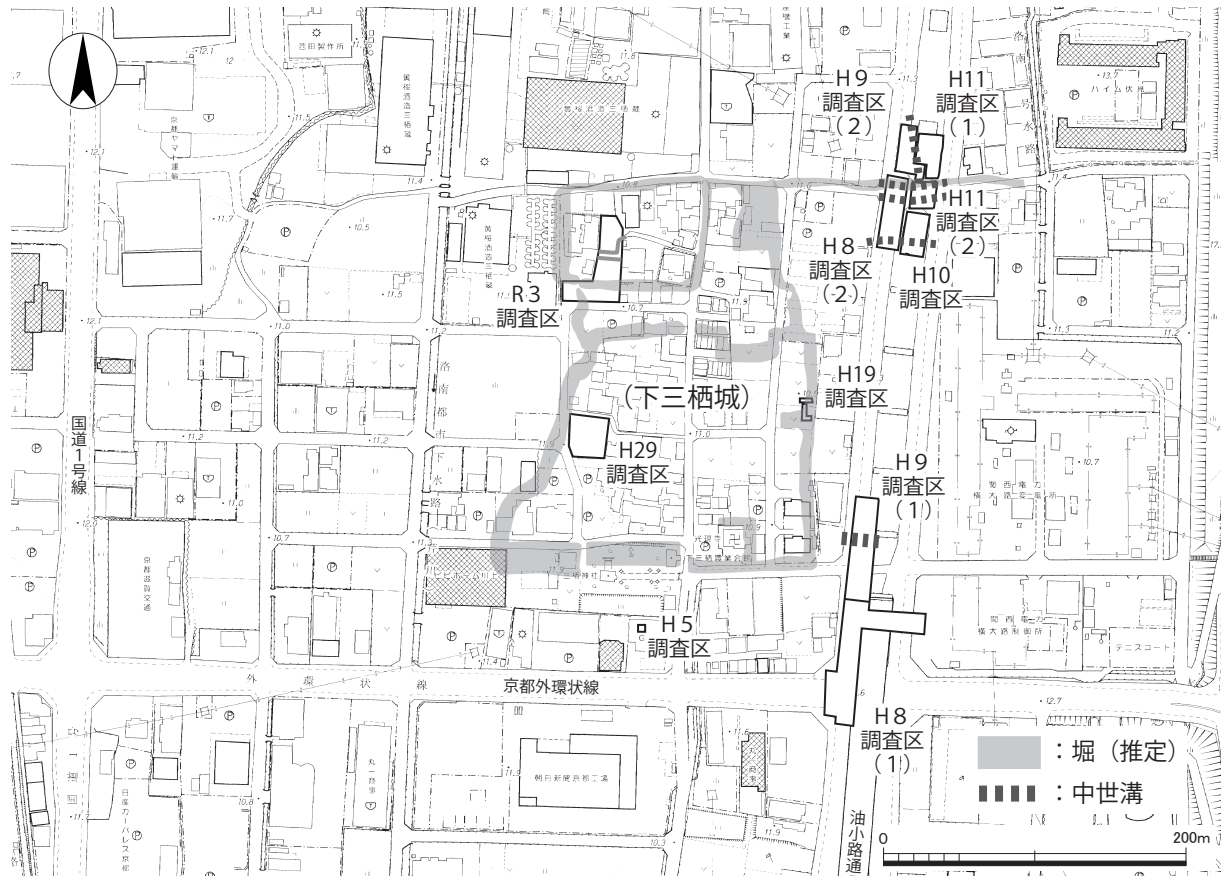


図 17 富ノ森城跡出土軒平瓦実測図 (1 : 4)



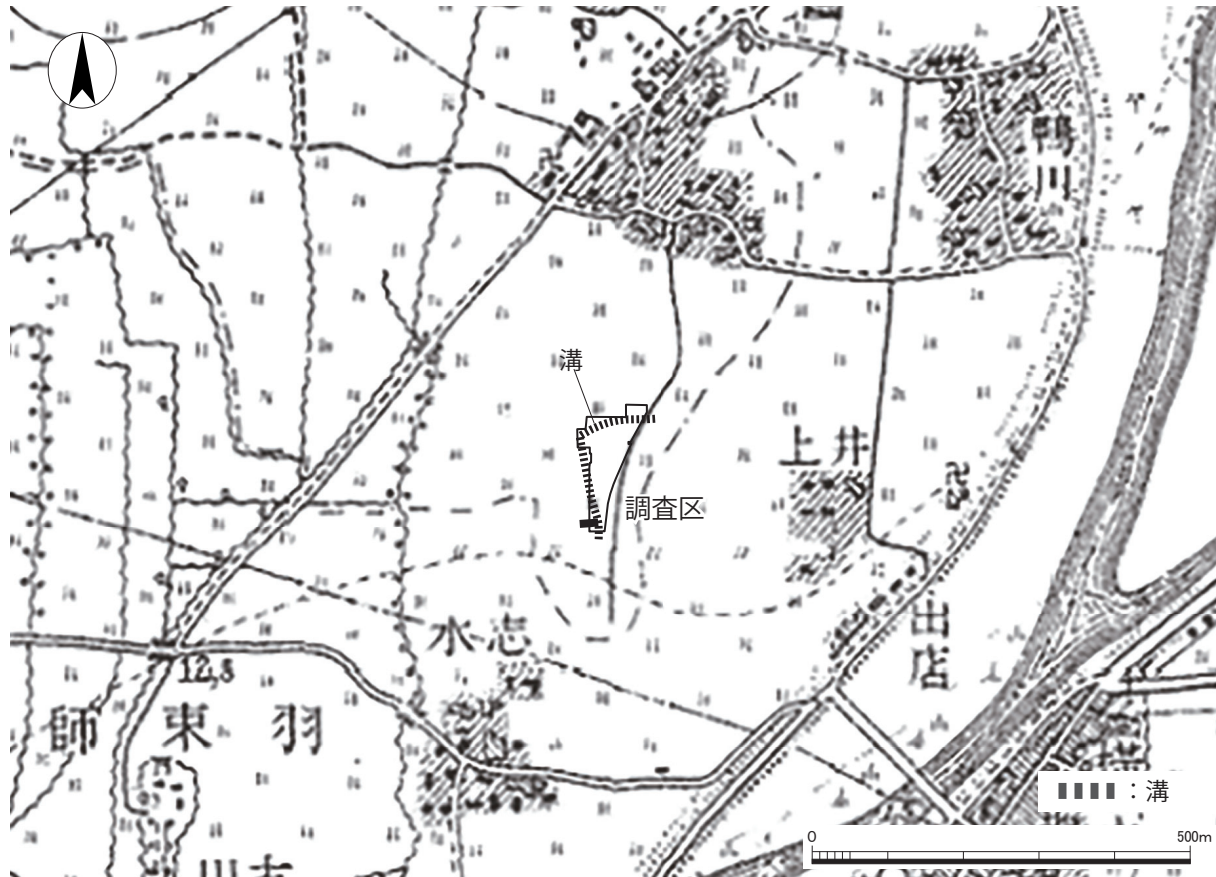


図 21 大正時代の久我東町遺跡 (1 : 10,000)

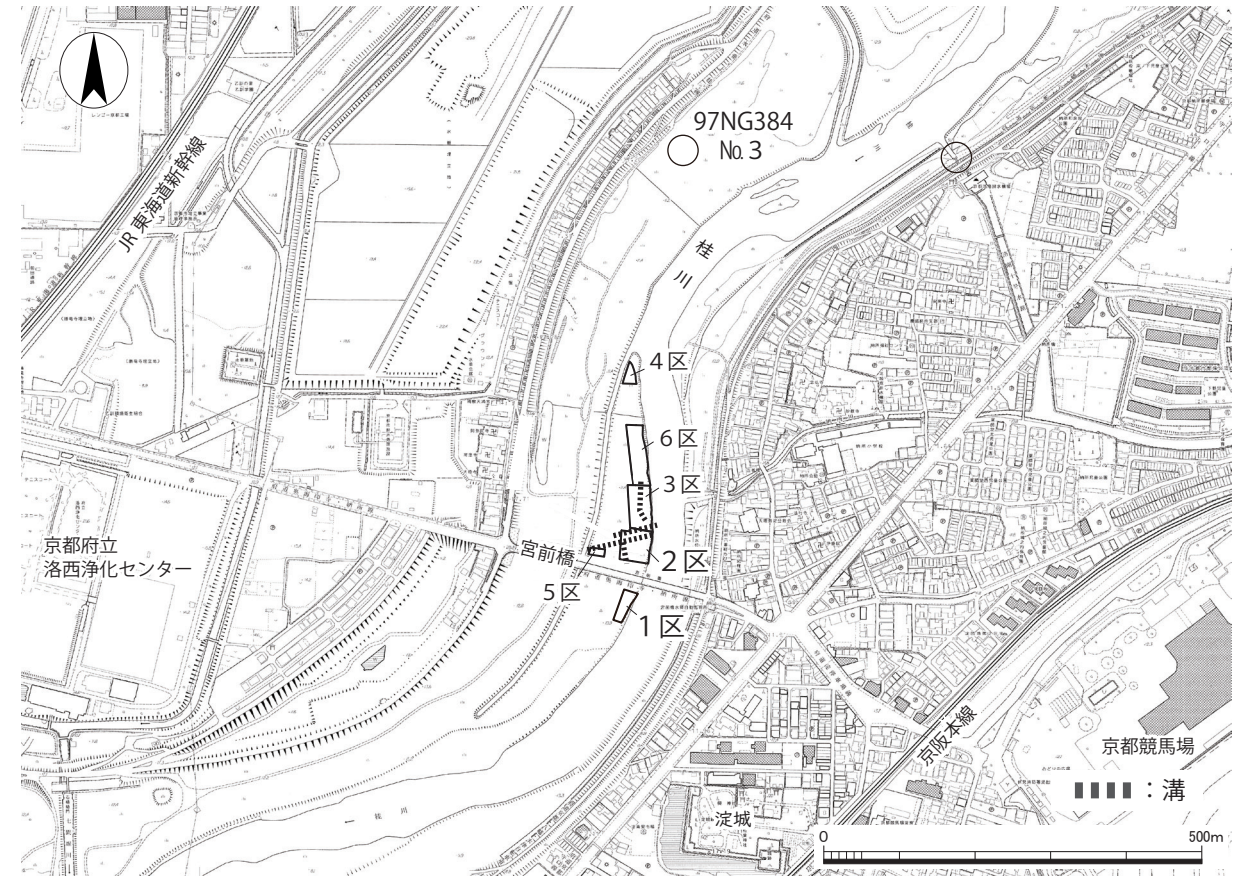


図 23 淀水垂大下津町遺跡調査位置図 (1 : 10,000)



図 22 久我東町遺跡 遺構平面図 (1 : 1,000)

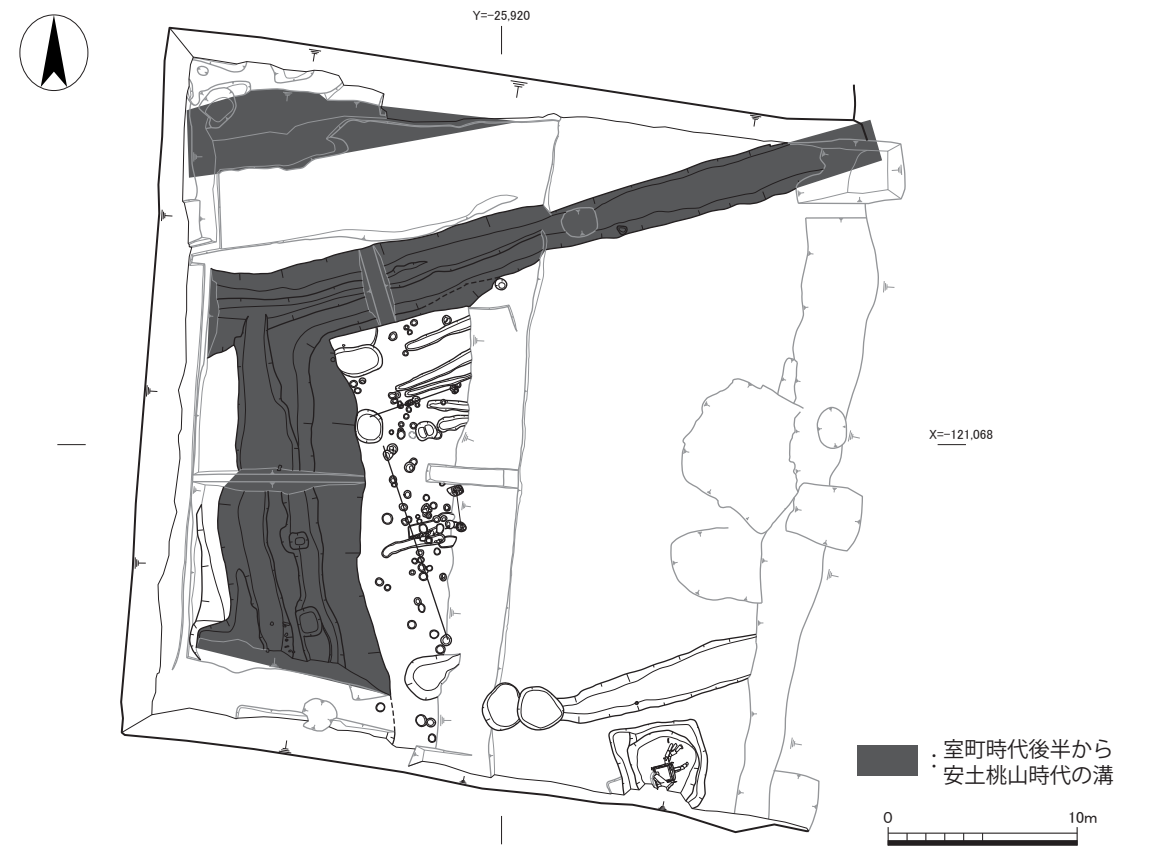


図 24 2区 遺構平面図 (1 : 400)